

### 3. 数列・級数の収束性

3-1.  $\varepsilon$ - $\delta$  式の数列の極限・級数の和の定式化. 数列  $a = (a_n)_{n=0}^{\infty}$  に対し、

- $n \rightarrow \infty$  のとき  $a_n \rightarrow \alpha$  ( $a_n$  が  $\alpha$  に収束 (converge) する,  $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = \alpha$ )  
 $\iff \forall \varepsilon > 0 : \exists N \in \mathbf{N} : \forall n \in \mathbf{N} : n \geq N \implies |a_n - \alpha| < \varepsilon$
- 数列・級数が収束しない時は全て発散というが、特に、  
 $n \rightarrow \infty$  のとき  $a_n \rightarrow +\infty$  ( $a_n$  が正の無限大に発散する,  $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = +\infty$ )  
 $\iff \forall M \in \mathbf{R} : \exists N \in \mathbf{N} : \forall n \in \mathbf{N} : n \geq N \implies a_n > M$   
 (負の無限大に発散、 $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = -\infty$  も同様)
- 級数の和  $\sum_{n=0}^{\infty} a_n = \alpha$  (resp.  $\pm\infty$ )  
 $\iff$  部分和  $s_n := \sum_{k=0}^n a_k$  の成す数列  $s = (s_n)$  について、 $s_n \rightarrow \alpha$  (resp.  $\pm\infty$ )

3-2. 絶対収束.

- (上に) 有界な単調増加数列はその上限に収束する。  
 \* 数列  $(a_n)_{n=0}^{\infty}$  が上に有界  $\iff \exists M \in \mathbf{R} : \forall n \in \mathbf{N} : a_n \leq M$   
 \* 上に有界な数列  $(a_n)_{n=0}^{\infty}$  の上限 (最小上界)  $\sup a_n := \min\{M | \forall N : a_n \leq M\}$   
 (即ち、 $\forall N : a_n \leq M_0$  かつ  $\forall \varepsilon > 0 : \exists N : a_n > M_0 - \varepsilon$  となる  $M_0$  のこと)
- 正項級数  $\sum_{n=0}^{\infty} a_n$  はその部分和が (上に) 有界ならその上限に収束する。項の順番を入れ換えても、収束性や極限值は変わらない (同じ値に収束)。
- 絶対収束する級数は収束する。項の順番を入れ換えても、収束性や極限值は変わらない (同じ値に収束)。  
 \* 級数  $\sum_{n=0}^{\infty} a_n$  が絶対収束  $\iff$  級数  $\sum_{n=0}^{\infty} |a_n|$  が収束
- 収束するが絶対収束しない級数 (条件収束) では、項の順番を入れ換えると、(正負の無限大を含めて) 任意の値に収束し得る。
- 交替級数  $\sum_{n=0}^{\infty} a_n$  ( $n$ : 偶数の時  $a_n > 0$ ,  $n$ : 奇数の時  $a_n < 0$ ) は、 $a_n \rightarrow 0$  なら収束する (絶対収束するとは限らない)。

3-3. 級数の収束性判定. 正項級数  $\sum_{n=0}^{\infty} a_n$  について

- 比較判定法: 既知の正項級数  $\sum_{n=0}^{\infty} b_n$  と比較して  
 \* 有限個の  $n$  を除いて  $a_n \leq b_n$  で  $\sum b_n$ : 収束  $\implies \sum a_n$ : 収束  
 \* 有限個の  $n$  を除いて  $a_n \geq b_n$  で  $\sum b_n$ : 発散  $\implies \sum a_n$ : 発散  
 注: 上記の判定法で、  
 \* 途中からでも良い ( $\exists N : \forall n \geq N : a_n \leq b_n$  などでも可)  
 \* 定数倍しても良い ( $\exists C > 0 : a_n \leq C b_n$  などでも可)
- d'Alembert の判定法 (比テスト):  
 \* ( $\exists r < 1$ : 有限個の  $n$  を除いて  $\frac{a_{n+1}}{a_n} \leq r$ )  $\implies \sum a_n$ : 収束  
 \*  $\frac{a_{n+1}}{a_n} \rightarrow r (n \rightarrow \infty)$  のとき、  
 $r < 1 \implies \sum a_n$ : 収束,  $r > 1 \implies \sum a_n$ : 発散
- Cauchy の判定法 ( $n$  乗根テスト):  
 \* ( $\exists r < 1$ : 有限個の  $n$  を除いて  $\sqrt[n]{a_n} \leq r$ )  $\implies \sum a_n$ : 収束  
 \*  $\sqrt[n]{a_n} \rightarrow r (n \rightarrow \infty)$  のとき、  
 $r < 1 \implies \sum a_n$ : 収束,  $r > 1 \implies \sum a_n$ : 発散
- 上記の判定法で  $r = 1$  の時はこれだけでは判らない。(より精密な判定法あり。)

3-4. 級数の収束・発散の例.

- $\sum_{n=0}^{\infty} x^n$  は  $|x| < 1$  で絶対収束  $\left( = \frac{1}{1-x} \right)$ 、 $|x| \geq 1$  で発散
- $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^s}$  は  $s > 1$  で (絶対) 収束、 $s \leq 1$  で発散
- $\sum_{n=2}^{\infty} \frac{1}{n(\log n)^s}$  は  $s > 1$  で (絶対) 収束、 $s \leq 1$  で発散

3-5. Landau の  $o$ -記号,  $O$ -記号.

- $f(x) = o(g(x)) (x \rightarrow a) \iff \frac{f(x)}{g(x)} \rightarrow 0 (x \rightarrow a)$   
 $\iff \forall \varepsilon > 0 : \exists \delta > 0 : \forall x : 0 < |x - a| < \delta \implies |f(x)| < \varepsilon |g(x)|$
- $f_1(x) = f_2(x) + o(g(x)) (x \rightarrow a) \iff f_1(x) - f_2(x) = o(g(x))$
- $f(x) = O(g(x)) (x \rightarrow a) \iff \frac{f(x)}{g(x)} : \text{有界} (x \rightarrow a)$   
 $\iff \exists C > 0 : \exists \delta > 0 : \forall x : 0 < |x - a| < \delta \implies |f(x)| < C|g(x)|$
- $x \rightarrow +\infty$  等に対しても同様。

3-6. 関数の“強さ”.

- $a < b$  に対し  $x^b = o(x^a) (x \rightarrow 0)$ ,  $x^a = o(x^b) (x \rightarrow +\infty)$
- $\forall a \in \mathbf{R}, \forall \varepsilon > 0$  に対し  $x^a = o(e^{\varepsilon x}) (x \rightarrow +\infty)$
- $\forall \varepsilon > 0$  に対し  $\log x = o(x^\varepsilon) (x \rightarrow +\infty)$
- $\forall \varepsilon > 0$  に対し  $\log x = o(x^{-\varepsilon}) (x \rightarrow +0)$

3-7. 練習問題.

- 実数列  $a = (a_n)_{n=0}^{\infty}$  について、
  - $a$  が  $n \rightarrow \infty$  で或る実数  $\alpha \in \mathbf{R}$  に収束するならば、 $a$  は有界である。
  - 級数  $\sum_{n=0}^{\infty} a_n$  が収束するならば、 $n \rightarrow \infty$  で  $a_n \rightarrow 0$  である。
- 次の級数の収束・発散を判定せよ。
  - $\sum_{n=0}^{\infty} \frac{n^{2017}}{2^n}$
  - $\sum_{n=2}^{\infty} \frac{1}{\sqrt{n}(\log n)^{2017}}$
  - $\sum_{n=0}^{\infty} (-1)^n$
  - $\sum_{n=0}^{\infty} \sin n$
- 実数  $a \in \mathbf{R}$  に対し、関数  $\frac{x^a}{e^x}$  の  $x \rightarrow +\infty$  での極限を考える。
  - 任意の自然数  $N \in \mathbf{N}$  に対し、 $x > 0$  において、 $e^x > 1 + x + \frac{x^2}{2} + \frac{x^3}{3!} + \cdots + \frac{x^N}{N!}$  であることを示せ。(ヒント：帰納法と増減表)
  - $a \in \mathbf{R}$  に対し、 $a < N$  となる自然数  $N \in \mathbf{N}$  を取ることにより、 $\frac{x^a}{e^x} \rightarrow 0 (x \rightarrow +\infty)$  を示せ。
- 実数  $a \in \mathbf{R}$  に対し、数列  $\left(\frac{n^a}{e^n}\right)$  の  $n \rightarrow \infty$  での極限を考える。
  - 充分大きな自然数  $n \in \mathbf{N}$  に対し (即ち、或る自然数  $N \in \mathbf{N}$  が存在して、 $n \geq N$  なる任意の自然数  $n$  に対し)、 $x > 0$  において、 $\left(\frac{n+1}{n}\right)^a < \frac{e}{2}$  となる (何故か?)。このことを用いて、或る定数  $C > 0$  が存在して、充分大きな自然数  $n \in \mathbf{N}$  に対し、 $\frac{n^a}{e^n} < C \left(\frac{1}{2}\right)^n$  であることを示せ。
  - これより、 $\frac{n^a}{e^n} \rightarrow 0 (n \rightarrow \infty)$  を示せ。(更に強く、 $\sum_{n=0}^{\infty} \frac{n^a}{e^n}$  が収束することも判る。)
- 上2問のどちらか一方の結果を用いて、他方の結果を示してみよ。